

当院における簡易血糖測定のコントロールサーベイとアンケート調査

瀧本 順三郎, 遠藤 佐夫, 大峠 和彦, 山本 慶和, 松尾 収二
(天理よろづ相談所病院)

糖尿病患者の増加に伴い、病棟や外来、手術室等で簡易血糖測定器を使用する頻度が高まっている。今回、当院で簡易血糖測定器を使用している全ての部署を対象に、その測定値の正確度および使用状況をチェックする目的でサーベイとアンケート調査を実施したので報告する。

【対象および方法】院内 35部署で使用されている簡易血糖測定器 3機種 89台（グルコカード 34台、デキスター Z 25台、アキュチェック 30台）を対象にコントロールサーベイを実施した。方法は健常人から採取した血液をそのまま用いた正常試料 A ブドウ糖水溶液を加えた高血糖試料 B の 2 種の血液試料を各部署に配布し、測定結果を GA-1160（アークレイ）の値と比較した。またアンケート用紙により使用状況を調査した。

【結果および考察】試料 A B それぞれの目標値は、GA-1160での血漿値 85mg/dl、281mg/dlとした。NCCLS の許容限界（100mg/dl以下は ± 15 mg/dl以内、100mg/dl以上は $\pm 20\%$ 以内）でみた時、試料 Bは 89台全て 281mg/dl $\pm 14\%$ 以内となり、結果は良好であった。また試料 Aでは、

グルコカードを除いた 2機種 55台のうち 53台は 85mg/dl ± 15 mg/dl以内であった。一方、グルコカード 34台中 29台が 70mg/d未満となったが、これは試料 Aの酸素分圧が 150mmHgと高かったため低値に測定されたものと考えられた。各部署での測定頻度は平均 5~ 10件 /日、測定者は不定で（3部署）、トラブルは少ない又はほとんど無いが大多数を占めた。内容は電池切れ（13部署）、点着音なし（8部署）、エラー表示（8部署）、測定値が検査室の値と異なる（4部署）などであった。またトラブル時は検査室に依頼するとの回答が多く、検査室の責任の重さが痛感された。

【まとめ】サーベイの結果は良好であった。簡易血糖測定器は概ね良好な形で使用されていたが、トラブル発生時は検査室に頼りたいとの意向が強く、検査室側としては常にそれを支援する態勢をつくる必要がある。

連絡先 0743-63-561内線 8523